

[投稿]

# 連携の輪ヨーロッパに広がる

日下部 治 Osamu KUSAKABE

正会員 国際委員会協定学会担当分科会長 Ph.D. 東京工業大学教授 工学部土木工学科

## ECCEとの協力協定調印

土木学会は、第11番目の海外協定学協会となる European Council of Civil Engineers (ヨーロッパ土木技術者評議会、以下ECCEと略称)と協力協定書に調印した。調印式は1月25日、ロンドン中心部にあるECCE事務局が設置されている Institution of Civil Engineers (イギリス土木学会(ICE))内のランキンの名を冠した部屋で行われた。出席者は、ECCE側が Antonio Adao da Fonseca 会長(ポルトガル)、John Whitwell 事務総長(イギリス)、Diana Maxwell 事務総長代理(イギリス)の3名、土木学会側が岡田宏会長、イギリスとフランスに在住する土木学会会員3名(曾我健一氏(ケンブリッジ大学講師)、小宮一仁氏(ケンブリッジ大学研究員)、上塚晴彦氏(国際建設技術協会欧州事務所次長))、それに筆者の5名であった。冒頭、岡田会長がFonseca会長に「あなたとはホームページでもうお会いしています」と話しかけると、彼は「私は双子だから、ホームページでご覧になったのは兄弟どちらかわかりませんよ」と答えるなど、和やかな雰囲気の中で調印式は始まった(写真-1)。なお、ECCEにとって、海外の学協会と協力協定を調印したのはアメリカ土木学会(ASCE)に次いで土木学会が2番目とのことである。



写真-1 協力協定調印式(前列中央、岡田会長、右、Antonio Adao da Fonseca会長、後列左から筆者、Diana Maxwell事務総長代理、John Whitwell事務総長)

## ヨーロッパへのネットワーク構築

今回の協力協定調印は、土木学会の国際戦略の一環として、世界的なネットワーク構築推進をめざした活動の一部である。ECCEは、EUに加盟する15か国の土木技術者の声を一本化するためにEU本部からの要請で1985年に設立された。現在は、15か国の16学協会を正メンバー(参加国:キプロス、チェコ共和国、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、アイルランド、イタリア、トルコ、ポルトガル、ルーマニア、ソルベニヤ、スペイン、イギリス)と、まだ正メンバーではない参加希望学会等を含め、総計27か国の学協会で構成されるNGO連合組織であり、年に2度評議会を開催している。各学協会が拠出する年間運営費は、会員数とGDPを勘案して決められており、例えばドイツは7000ポンド、イギリスは5000ポンド、ポルトガルは2000ポンドである。ECCEは設立目的として、技術・安全・品質・教育の各レベルの向上、職業倫理の確立、地域基準の整合性などを掲げ、環境、R&D、教育・職業訓練、倫理などの作業部会を設けて活動を行っている。ECCEが昨年夏にとりまとめた「The Civil Engineering Profession in European」と題する報告書には、教育組織、学生数、職業資格、給与ベース、学会サービスなどのヨーロッパの土木事情が紹介されている。それによると、主な参加学協会の会員数は、イギリス、デンマークが約5万人、トルコが4.5万人、ポルトガルが3万人、スペイン、ギリシャが1.5万人弱であり、今回の調印によって土木学会としては新たに20万人以上もの世界の土木技術者とネットワークを結んだことになる。なお、ECCEの活動を詳しくお知りになりたい方は、ホームページ<http://www.eccenet.org/>をご覧ください。

Fonseca会長は、ECCEのような国際組織の仕事では調整に時間がかかることや、EUが分配する研究資金獲得などにはEU本部との密接な意志の疎通が欠かせないことなどを強調するとともに、現在、ヨーロッパ内での職業資格、工学技術者教育評価の問題に関連して Engineer's Mobility ForumにECCEが深く関わっていることを説明した。これに呼応して、岡田会長日本技術者教育認証機構(JABEE)やAPEC技術者の設立の動きを

説明し、さらに土木学会ではCENとISOの規格・基準の動向にも強い関心を持っていることを伝えた。また、21世紀の社会基盤整備投資の中心地域はアジアであるとの認識から、1998年に第1回アジア土木技術会議をマニラで開催し、2001年4月には第2回会議を土木学会が中心となって開催する計画を明らかにした。それに対してECCE側からは、土木技術者のためになることならば積極的に協力したいとの回答を得た。

### 国際外交にふさわしい環境づくり

調印式後、トーマステルフォードら歴代会長の名前が刻まれた壁や、肖像画が飾ってある階段(写真-2)、充実した図書館、書店、レストランなどのICE施設を見学し、さらに土木学会の協定学会であるICEのSainsbury会長への表敬訪問を終えて、ICEを後にした。国際活動の果たすべき機能の一部は「適切な外交」であり、「適切な外交」には「重厚な雰囲気の中での適切な儀式」が必須である。そのような視点から土木学会の活動や施設を見直したとき、これからはすべきことの多さを改めて感じた。

(1999年2月4日受付)



写真-2 ICEの重厚な建物

## クリップメモ

### 微少な地球上の淡水量

🔑 水資源 (water resources), 淡水 (fresh water)

地球上にある水量は、海水と淡水を合わせて約14億km<sup>3</sup>あるといわれています。

陸地の面積は海域の面積に比べて少ない訳ですから、淡水量が海水量に比べて少ないことは容易に察しがつくと思いますが、国連水会議資料によると、海水が全体水量に占める割合は約96.5%にも及び、淡水は3.5%しかありません。その淡水も、氷雪、地下水、凍土地下水および大気中水蒸気が淡水量の

99%以上を占めていますので、私たちが利用できる淡水量はごくわずかで、地下水を含め河川水や湖沼水等、地球上の水の約0.8%に過ぎません。人類の人口は増加の一途をたどっていることを考えれば、水質に合った水利用方法の促進や、水の複数回利用の技術等、水をより効率的に利用する技術が今後ますます重要になってくると思われま

(水資源開発公団 田中 靖)